

## 平成 28 年度 事業報告の概要

公益財団法人仙台市市民文化事業団

### 平成 28 年度事業の概況

仙台市の震災復興計画が終了し、新たなまちづくりが進む中で、財団設立 30 周年という大きな節目を踏まえ、以下のとおり事業を行った。

- ・年度当初に開催された「第 6 回仙台国際音楽コンクール」の成功に向けて、万全の体制でその運営に取り組んだ。
- ・既存事業の総括や新規事業の開拓を進めるとともに、各事業分野において「30 周年記念事業」を実施した。
- ・指定管理者制度や劇場法などの理念をもとに、各施設での賑わいづくりや、創造型事業のプロセスにおける市民協働・人材育成に取り組み、「次の 10 年」の基盤作りに努めた。
- ・日常的な文化芸術鑑賞機会や学習機会の充実に加え、新たに「せんだい 3.11 メモリアル交流館」の運営に当たるなど、震災の記憶を後世に残す事業や被災者・地域に寄り添う事業を、引き続き重点的に実施した。
- ・交流人口の拡大に向け、他地域の劇場や文化財団と事業連携し、東北を牽引する文化財団としての機能強化に取り組んだ。
- ・仙台市の文化振興施策と緊密に連携し、外部資金の拡充により事業体系を充実させるとともに、職員の意識、能力の向上を図り、公益財団法人として健全かつ適切な組織運営の継続に努めた。

### 平成 28 年度事業の概要（経費／単位千円）

#### （1）支援、協働、人材育成事業

芸術表現や事業制作、学習など、市民自ら行う文化活動に対して、安全・快適で使い易い文化施設の提供をはじめとし、生涯学習の支援、広報活動の支援、事業費の一部助成、助言や協働、表現者や制作者の育成事業などを行った。

併せて、当事業実施の過程で、当事業団が自主事業を企画・実施する際に必要となる地域文化情報の把握や人的ネットワークづくり、文化的コミュニティ醸成に努めた。

#### ア. 施設の貸出・維持管理運営及び利用者への支援・協力

- ・仙台市青年文化センター 管理運営（330,365）/No. 148
- ・仙台市泉文化創造センター管理運営（114,672）/No. 149 ※(株)東北共立、(株)石井ビル管理とのグループ
- ・仙台市歴史民俗資料館 管理運営（61,512）/No. 98
- ・仙台市富沢遺跡保存館 管理運営（80,938）/No. 108
- ・仙台市縄文の森広場 管理運営（40,306）/No. 121
- ・仙台文学館 管理運営（176,853）/No. 137

- ・せんだいメディアテーク 管理運営 (557,416) /No. 150
- ・せんだい演劇工房 10-BOX 管理運営 (25,649) /No. 81
- ・せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営 (42,216) /No. 82

#### イ. 市民企画事業への広報支援・助成・協働

- ・支援・助成・協力事業 (19,082) /No. 25
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業 (1,270) /No. 61

#### ウ. ボランティア、地域、教育機関等との協働

- ・イズミティ 21 市民協働ロビーイベント (369) /No. 34②
- ・仙台国際音楽コンクールボランティア運営 (2,289) /No. 77
- ・各ミュージアムボランティア運営 /No. 114 ほか
- ・各ミュージアム 教育機関や地域との連携事業 /学校・地域連携促進事業 /No. 88 ほか

#### エ. 人材育成

- ・(30周年記念事業) LECTURES/レクチュアズ (5,063) /No. 19
- ・(30周年記念事業) 東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト in 仙台 (874) /No. 20
- ・10-BOX 夏の学校 (2,033) /No. 51
- ・舞台スタッフ☆ラボ (847) /No. 54
- ・せんだい短編戯曲賞 (1,705) /No. 53
- ・仙台ジュニアオーケストラ運営 (27,672) /No. 80

#### 【せんだい 3.11 メモリアル交流館 管理運営】

仙台市の東日本大震災メモリアル施設として地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成 28 年 2 月に開館した当施設の管理運営を、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。年 4 回の企画展やワークショップ等イベントの開催の他、地域の活動団体や学校などと協力した展示やコンサート等を実施した。(年間来館者数：55,366 人)

#### 【東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」公募・共催事業】

東京オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における様々な資源を生かした事業を推進し、新しい成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果がオリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー（文化遺産）」として末永く継承されていくことを目的とした「仙台市文化プログラム事業」について、次年度の実施を予定した企画提案を一般から公募し、企画書作成事業を選定した。(企画提案応募数：30 件、選定件数：6 件)

## (2) 普及、啓発事業

主に文化芸術の鑑賞層を対象とし、芸術や文化全般の魅力を広く普及していくための事業を幅広く展開し、アーティストや制作者を支える観客・サポーターやスポンサーの裾野拡大を図った。

当事業団ならではの特色ある公演や企画展、文化講座や体験ワークショップ、教育・福祉・まちづくりの現場に「芸術の力」を届けるアウトリーチ事業、文化情報誌の編集・発行やホームページ運営などの広報事業、イベント鑑賞友の会の運営などを行い、前掲(1)の市民文化活動支援と併せ双方で事業を展開することにより、地域文化の総合的な底上げを図った。

#### ア. 鑑賞公演

- ・(30周年記念事業) ユジャ・ワン ピアノリサイタル (5,335) /No. 5

- ・(30周年記念事業) 日伊国交樹立 150 周年記念 イタリア ムジカ リーヴァフェスティバルオペラ「ラ・ボエーム」(14,705) /No. 7
- ・(30周年記念事業) 劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業 演劇公演「遠野物語～奇ツ怪 其の参」(10,487) / No. 9
- ・(30周年記念事業) ライブ文学館スペシャル「家族の風景～向田邦子のまなざし」(1,923) /No. 15
- ・宝塚歌劇花組仙台公演 (24,629) /No. 27
- ・仙台クラシックフェスティバル 2016 (80,490) /No. 28
- ・古典芸能【仙台青葉能、文楽公演、能-BOX 経常事業、市民能楽講座等】(5,159) /No. 31、52、55
- ・新春いずみ寄席 (3,123) /No. 30
- ・れきみん秋祭り (2,441) /No. 35
- ・ライブ文学館 (1,933) /No. 47
- ・劇場・音楽堂等活性化事業【小中学校オーケストラ鑑賞会、オーケストラ・スタンダード、こまつ座公演】(77,808) /No. 32

#### イ. 展示事業

- ・歴史民俗資料館 特別展「仙台・昔と今の暮らし」(1,265) /No. 100
- ・富沢遺跡保存館 特別企画展「いにしへの石の道具」(1,958) /No. 110
- ・仙台文学館 特別展「まど・みちおの世界展」(3,704) /No. 139
- ・歴史民俗資料館 企画展 (1,920) /No. 101、102
- ・富沢遺跡保存館 企画展 (148) /No. 111～113
- ・縄文の森広場 企画展 (46) /No. 123
- ・仙台文学館 特別展・企画展 (5,178) /No. 141、142

#### ウ. 講座・ワークショップ等

- ・各ミュージアムでの講座・ゼミナール・ワークショップ /No. 66、87、103、114 ほか
- ・ホール見学会 (青年文化センター、イズミティ 21) /No. 33⑤、34③

#### エ. アウトリーチ

- ・仙台市震災復興のための芸術家派遣事業 (0) /No. 62 ※実行委員会に加盟し事務局を運営

#### オ. 文化芸術情報の提供・広報

- ・広報事業 (5,301) /No. 70
- ・事業団友の会運営 (3,003) /NO. 71

### ■30周年記念事業

#### 【ユジャ・ワン ピアノリサイタル】 9/5(月) 日立システムズホール仙台

第1回仙台国際音楽コンクールで3位入賞の後目覚ましい活躍を遂げ、現在クラシック界の最先端にいるピアニストのリサイタルを開催した。(入場者：541人)

#### 【日伊国交樹立 150 周年記念 イタリア ムジカ リーヴァフェスティバルオペラ「ラ・ボエーム」】

11/9(水) イズミティ 21

本格オペラを手の届きやすい価格で提供した。(入場者：1,040人)

#### 【劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業 演劇公演「遠野物語～奇ツ怪 其の参」】 12/3(土)、4(日)

イズミティ 21

次世代の演出家として高い評価を得ている前川知大の新作舞台作品を、ネットワークを用い全国5館で上演した。(入場者：736人)

#### 【ライブ文学館スペシャル「家族の風景～向田邦子のまなざし」】 3/17(金) 日立システムズホール仙台

没後35年を経てなお多くの読者を魅了してやまない向田作品の、元NHKアナウンサー山根基世による朗読と、向田和子を迎えてのトークを開催した。(入場者：521人)

## ■経常事業

### 【宝塚歌劇花組仙台公演】 9/17(土)、18(日) イズミティ21

仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施した。第1部ミュージカル「仮面のロマネスク」～ラクロ作「危険な関係」より～、第2部グランド・レビュー「Melodiaー熱く美しき旋律ー」を上演した。出演：明日海りお・花乃まりあ ほか 花組スター (入場者：のべ5,800人)

### 【仙台クラシックフェスティバル2016】 9/30(金)～10/2(日) 日立システムズホール仙台他

仙台の秋の風物詩として定着した「せんくら」の第11回を開催した。「新しい才能、新しいせんくら」をキーワードとして、新しい魅力と若い力にスポットをあて、市内4会場で87の公演を実施。地下鉄駅コンサートや街なかコンサート、「出張せんくら」も開催し、音楽の持つ力によりたくさんの方々に元気と希望、喜びを届けるフェスティバルとした。(入場者：のべ38,000人)

## (3) 交流、創造、発信事業

仙台圏と他の地域の人材が交流し、共通認識を持って協働していくと共に、長期的継続も視野に入れながら、作品や事業を作りあげ、広く社会に成果を発信した。

参加者・関係者・観客などの立場で事業に関わり触発された若い人材が、年月を経て指導者やプロデューサーとなり、次の若い人材を励まし育てていくような世代循環の流れも重視しながら、地域文化リーダーの育成やコンテンツの創造、都市間交流、都市ブランドの醸成など、さまざまな成果を期待し、市民協働・プロデュース型事業を推進した。

### ア. 顕彰制度・コンクール等

- ・第6回仙台国際音楽コンクール運営事業 (282,650) /No. 73～79
- ・(再掲) せんだい短編戯曲賞 /No. 53
- ・ことばの祭典ー短歌・俳句・川柳への誘い (398) /No. 86
- ・土井晩翠顕彰会の支援 (晩翠わかば賞・晩翠あおば賞) (0) /No. 92

### イ. プロデュース公演・企画公演・展示事業

- ・(30周年記念事業) 劇場・音楽堂等活性化事業【小池博史ブリッジプロジェクト・東北タップダンス&アートフェスティバル他】 (26,497) /No. 1
- ・(30周年記念事業) 市民参加型創作ミュージカル「仙台ねこ」準備・プレビュー (5,861) /No. 18
- ・(30周年記念事業) 縄文祭復元事業 (2,428) /No. 16、45
- ・(30周年記念事業) 戯曲賞関連上演 (1,150) /No. 2
- ・(30周年記念事業) ミュージウム・シアター「狩人登場」 (1,598) /No. 13、43
- ・(30周年記念事業) 日・タイ修好130周年 タイ王立舞踊団特別公演準備/No. 24
- ・(再掲) 仙台クラシックフェスティバル2016 /No. 28
- ・せんだい・アート・ノード・プロジェクト (27,133) /No. 97
- ・メディアテーク「調査と表明 (1) (2) R&D」 (23,518) /No. 94、95

### ウ. グッズ製作・出版

- ・(30周年記念事業) RE:プロジェクト記録集出版準備/ No. 22
- ・(30周年記念事業) 「コミュニティ・アーカイブのつくりかた」出版準備 (55) /No. 23
- ・ミュージウムグッズ開発・販売 (575) /No. 49

## ■30周年記念事業

### 【小池博史ブリッジプロジェクト「KENJI」&「風の又三郎 2016-ODYSSEY OF WIND-」】

宮澤賢治生誕120年の2016年、宮澤賢治の哲学をモチーフとして、国際的に活躍を続ける演出家小池博史による市民参加プログラムと公演を下記の通り実施した。

- ・市民の舞台創作プログラム「KENJI」では、公募による市民18名が、10日余りのワークショップを経て創作舞台を披露した。(7/2(土)~12(火) 日立システムズホール仙台)
- ・舞台公演「風の又三郎 2016-ODYSSEY OF WIND-」では、新たにキャストオーディションを仙台で行い、仙台版新演出により全国4劇場で連携・上演した。(11/6(日) 日立システムズホール仙台 入場者244人)

### 【熊谷和徳&TAP THE FUTURE IN SENDAI 東北タップ&アートフェスティバル2017 TAP INTO THE LIGHT】 3/10(金)~12(日) 日立システムズホール仙台

仙台市出身の世界的タップ・ダンサー熊谷和徳を中心に、本場ニューヨークからのパフォーマーによるタップダンス公演の他、音楽評論家ピーター・バラカンとの対談や、一般対象のタップダンス、音楽、アートなど幅広い分野のワークショップなどを3日間にわたって開催した。(参加アーティスト20人以上、公演・ワークショップ入場及び参加者 1,967人)

## ■経常事業

### 【第6回仙台国際音楽コンクール】

ヴァイオリン部門;5/21(土)~6/5(日)、ピアノ部門;6/11(土)~6/26(日) 日立システムズホール仙台  
32の国と地域からの370名の申し込みのうち、DVDによる予備審査を通過した66名(ヴァイオリン32名、ピアノ34名)が仙台での本選で競演を繰り広げ、両部門それぞれ6名ずつの上位入賞が決定した。開催期間中は、「チャレンジャーズ・ライブ」「学校訪問ミニコンサート」や市民が企画するコンサートなど、セミファイナルに進めなかった出場者の協力を得ての市民向けコンサートが16個所で開催されたほか、審査委員によるマスタークラスが開催された。(期間中の入場者 のべ13,626人)

### 【せんだい・アート・ノード・プロジェクト】 通年

優れた現代アートの持つ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合う事業として当年度より開始。アーティストユニットのKOSUGE1-16による、大正時代の仙台の児童文化運動に関する調査をもとに企画・構想した展覧会、こどもアートひろば「アッペトッペ=オガル・カタカナシ記念公園」(会場:国際センター駅2階青葉の風テラス)の開催のほか、仙台で活動するパートナーと協働で企画・実施するトークイベント「TALK(トーク)」、スー・ハイドゥによるリサーチプロジェクト「仙台商人プロジェクト」、自由参加型公開会議「MEETING(ミーティング)」の実施、アーティストのリサーチ拠点の開設準備などに取り組みながら、ジャーナルの発行を行い、事業の発信にも努めた。(総参加者数 7,416人)

## (4) 調査・研究、資料収集・保管

文化芸術における分野ごとの調査や研究、ミュージアム常設展などを支える資料収集と保存、財団全体の事業進行管理・調整・評価・内部研修など、事業全体の成果向上のため必要となる総合的な事業を行った。また、震災の記憶を風化させないための記録プロジェクトを継続した。

#### ア. 調査・研究

- ・歴史民俗調査研究・報告（602）/No. 106
- ・考古学調査研究・報告の刊行（129）/No. 115
- ・地底の森ミュージアム遺構分析調査（330）/No. 118

#### イ. 資料収集・保存

- ・歴史民俗資料収集（2, 138）/No. 105
- ・文学資料収集・保管（3, 883）/No. 144
- ・メディアテークライブラリー運営等（9, 297）/No. 151
- ・地域文化アーカイブ（1, 837）/No. 95②
- ・震災の記録 市民協働アーカイブ事業（14, 582）/No. 84

#### ウ. 内部評価・制作管理・職員研修他

- ・管理運営施設(全施設対象)利用者アンケート、職員研修 /No. 72

# 公益財団法人仙台市市民文化事業団 平成28年度 事業報告書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
	事業内容					入場者数等見込・備考
(単位:千円)						

## (1) 芸術文化振興事業

### 1) 30周年記念事業

当事業団の設立30周年を起点に、これまでの成果の総括・発信、外部パートナー人材や外部資金の拡充をテーマに、①事業推進力 ②市民協働力 ③サービスマインドを強化していくための30周年事業

#### ① 公演事業

1	<b>劇場・音楽堂等活性化事業 (仙台市青年文化センター文化庁補助事業) 30周年記念事業分</b>	通年	日立システムズホール仙台	26,497	17,745	入場料等 3,780 文化庁補助金 8,965 助成金 5,000
舞台芸術用ホールを擁し地域の演劇・ダンス文化を支えてきた経験を生かし、劇場の一層の活性化を図るため文化庁の補助を受け実施する事業のうち、都市間連携や事業拡充など周年ならではの以下4事業を実施した。 ①小池博史ブリッジプロジェクト「KENJI」&「風の又三郎」(4月～11月):宮澤賢治生誕120年となる2016年に、自然と人間の関係性を問う賢治の哲学をモチーフとし、市民による舞台作品の創作プログラム「KENJI」に「風の又三郎」の仙台版新演出公演を組み合わせて、シンポジウム等も加えて長野、多摩、茅野、仙台の4館で連携して実施した。 ○市民創作プログラム「KENJI」(7/2～12)最終日成果発表 ○公演「風の又三郎2016-ODYSSEY OF WIND-」(11/6) 原作:宮沢賢治 演出・脚本・振付・構成:小池博史 出演・振付:清水寛二(能楽師・鏡仙会)、松島誠、小谷野哲郎、谷口界、松縄春香、立本夏山 ②東北タップダンス&アートフェスティバル(3/8～12):仙台出身の世界的タップ・ダンサー 熊谷和徳の呼びかけにより、世界トップレベルのパフォーマンス鑑賞機会を提供し、東北から文化を発信するイベントとして開催した。国内外から多数のゲストを迎えるためのタップの祭典となり、日本全国はもとより台湾など海外からの参加があった。出演:熊谷和徳、KAZ TAP COMPANY、Gabe Winns、Ted Louis Levy、Josette Wiggan、DJ MITSU THE BEATS、TAP the FUTURE in SENDAI、青柳拓次、ラティール・シー、ピーター・バラカンほか [公演など]3/10 ピーターバラカン×熊谷和徳対談、オープニングパーティー、3/11「Tap Into The Light」(タップショー)、3/12パネルディスカッション、クロージングパーティー [各種ワークショップ] 19コースのタップ・ワークショップと7コースの絵や音楽のワークショップを実施 ③オリジナルミュージカル「仙台ねこ」プレビュー公演「ねこ・プレ」(3/4) 平成29年8月上演予定の、市民とともに作り上げるオリジナルミュージカル「仙台ねこ」の公演に向け、そのプレ企画を実施した。前半はトークセッション「日本ミュージカル古今東西」、後半「仙台ねこ」プレビューステージを披露した。 ④AZ9(アズナイン)ジュニアアクトーズ招聘公演「村田スカイメイズ～奥州蛇藤伝説2017」(2/26):大河原市「えずこホール」で24年の歴史を持つ児童劇団AZ9(アズナイン)を招聘し、仙台での発表の機会、鑑賞機会を提供するとともに、制作中のミュージカル「仙台ねこ」の参加者との交流の場を持った。 作:クマガイコウキ 構成・演出:渡部ギョウ 出演:AZ9ジュニア・アクトーズ(22・23・24期生)						
2	<b>戯曲賞関連上演</b>	7/15～7/18 7/21～7/24	能一BOX・10-BOX	1,150	0	第1回・第3回せんだい短編戯曲賞大賞を受賞した綾戸優季の代表作2作品「不眠普及」「止まらない子供たちが轢かれてゆく」を、異なる会場で2週にわたり上演した。 入場者:のべ192人
3	<b>トリニティ・アイリッシュ・ダンス</b>	7/6	東京エレクトロンホール宮城	6,792	4,308	入場料 4,282 物販手数料 26 競技ダンスの世界大会優勝者を抱えるカンパニーであるトリニティ・アイリッシュ・ダンスを招聘し、バンドの生演奏とともに重厚で質の高いエンターテインメントを市民に提供した。 入場者:869人
4	<b>東京バレエ団 子どものためのバレエ「ドン・キホーテの夢」</b>	8/10	イズミティ21	5,775	2,867	入場料 2,850 その他 17 次代を担う子どもたちに、質の高いバレエ公演の鑑賞機会を提供することを目的に、家族で楽しめる内容のバレエ公演を低価格で実施。企画制作:公益財団法人日本舞台芸術振興会(東京バレエ団) 出演:東京バレエ団 演出・振付:ウラジーミル・ワシリエフ/斎藤友佳理 入場者:920人
5	<b>ユジャ・ワン ピアノリサイタル</b>	9/5	日立システムズホール仙台	5,335	2,497	入場料 2,497 2001年開催の第1回仙台国際音楽コンクールに14歳で出場、3位入賞後、目覚ましい活躍をとり、世界各地でセッションを巻き起こしているピアニスト、ユジャ・ワンのリサイタルを開催した。 入場者:541人
6	<b>イズミティ21小ホール スタインウェイピアノお披露目コンサート</b>	12/22	イズミティ21	782	0	平成28年6月に小ホールにスタインウェイ社製コンサートグランドピアノ1台が配備されたことを周知し、ホールの新しい魅力としてアピールするために同ピアノを使用したコンサートを実施した。ピアノソロ、ピアノ&ソプラノ、ピアノ&ヴァイオリンの3部で実施し、ホールの新しい響きを体験できるショーケース的なコンサートとして構成、クラシック系コンサートでの利用をPRした。入場無料で往復はがきによる事前申込制とし、応募者多数のため抽選にて招待した。 入場者:347人

7	日伊国交樹立150周年記念 イタリア ムジカ リーヴァ フェスティバルオペラ「ラ・ボエーム」	11/9	イズミティ21	14,705	2,449	入場料 2,449	
	馴染み深い名曲の揃った人気の演目「ラ・ボエーム」を字幕付きで上演し、クオリティの高い本格オペラを実施した。主要キャストのうち4名はイタリアのリーヴァ・デル・ガルダでのオーディションで決定。出演者の一部に地元人材を使うことや作品理解を深める事前セミナーの開催などを通して、地域全体で上演を盛り上げた。 芸術監督: 甚目裕夫、演出: 三浦安浩、指揮: ロレンツォ・タッツィエーリ						入場者: 1,040人
8	チェコ少年合唱団「ボニ・ブエリ」	11/27	イズミティ21	3,426	1,444	入場料 1,436 その他 8	
	テノール、アルト、ソプラノ、バスの4声で構成され、通常の少年合唱団とは違い厚みのある広がり・豊かな音楽を創りだしているチェコ少年合唱団「ボニ・ブエリ」仙台公演を実施した。プログラムの一部に仙台市立南材木町小学校 南の星合唱団との合同ステージを設け、子どもたちの育成と国際交流を図った。						入場者: 670人
9	劇場・音楽堂等間ネットワーク構築支援事業 演劇公演「遠野物語～奇ツ怪 其の参」	12/3・4	イズミティ21	10,487	6,750	入場料等 5,048 助成金 1,702	
	次世代の演出家として高い評価を得ている前川知大の舞台を、ネットワークを用い全国各地の劇場で上演する企画の仙台公演。すぐれた演劇作品の鑑賞機会を幅広い年代層に提供した。2日間各1回開催。 出演: 仲村トオル 瀬戸康史 山内圭哉 安井順平 浜田信也 池谷のぶえ 銀粉蝶 ほか 原作: 柳田國男 構成・台本・演出: 前川知大 ネットワーク館: 世田谷パブリックシアター、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館、兵庫県立芸術文化センター、岩手県民会館						入場者: 736人
10	日本名曲アルバム&クリスマスコンサート	12/17	イズミティ21	5,355	2,886	入場料 2,886	
	幅広い年代層への鑑賞機会提供の一つとして、童謡や馴染みの深い歌謡曲を中心にしたプログラムにより、BS-TBSで放映されている同番組の舞台版を新演出で実施した。 出演: 日本名曲アルバムドリームシンガーズ、指揮: 福永一博、ピアノ: 水野彰子、ソプラノ: 藤田美奈子						入場者: 860人
11	スーパージャズコンサート 古野光昭フルノーツ&渡辺香津美・山下洋輔	2/28	イズミティ21	5,224	5,206	入場料 5,206	
	ジャズ界をリードする超一流のミュージシャンが集まり、刺激的で自由な演奏を提供した。併せてチケット購入者特典のイベント「はじめてのジャズ講座」を実施した。 出演: フルノーツ(古野光昭/ベース・川嶋哲郎/サクソフ・大坂昌彦/ドラムス) スペシャルゲスト: 渡辺香津美(ギター)・山下洋輔(ピアノ)						入場者: 1,260人
<b>②ミュージアム活性化事業</b>							
12	文学ミュージアムシアター 展示室劇場	3/20 3/25	仙台文学館	456	0		
	仙台文学館の常設展示の柱である土井晩翠と島崎藤村を、より積極的に紹介する試みとして、二人の生涯を短い演劇に仕立てて(「島崎藤村/三浦屋にて」「土井晩翠/秋保村にて」)展示室内で上演した。来館者が立体的に二人を感じ、興味関心を深める手助けとするとともに、この手法を通じて文学と演劇の新しい魅力や楽しみ方を提案した。						入場者: 島崎藤村 65人 土井晩翠 55人
13	ミュージアム・シアター「狩人登場」	5月～2月	富沢遺跡保存館	800	0		
	市内を中心に演劇等の表現活動をする身体表現ユニット「短距離男道ミサイル」の協力を得て、先史時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供した。30周年事業として、これまでの活動をより多面的に展開していくための衣装等の制作を行った。						
14	森を育てる2016	5月～10月	富沢遺跡保存館	996	6	参加料 6	
	環境復元(展示)と環境回復(保全)を核として館の普及啓発等に活用されてきた富沢遺跡保存館の野外展示「氷河期の森」の育成を促すとともに、持続可能な地域づくりを担う人材育成のため、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を加え、参加者が、多様性、相互性、有限性、公平性、連帯性、責任性などを学ぶ機会となるよう、環境活動を将来にわたってどう行っていくかを主体的・計画的に考える基礎作りの活動を行った。						のべ85人
15	ライブ文学館スペシャル 「家族の風景～向田邦子のまなざし」	3/17	日立システムズホール仙台	1,923	1,831	入場料 1,831	
	没後35年経った今も、多くの読者を魅了してやまない向田邦子。元NHKアナウンサー山根世基の向田作品の朗読と、ピアノ・ヴァイオリン、バンドネオンの共演で第一部、山根を聞き手に実妹の向田和子を迎えてのトークの二部構成で実施した。						入場者: 521人
16	縄文祭復元事業	通年	縄文の森広場	1,239	0		
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、「まつり」の復元創造を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民と共に公開した。前年度に引き続き、これまで復元製作してきた楽器を演奏する成果公開イベント「縄文人の記憶の宴」をより大規模に行い、館の独自事業と位置づけ全国に発信した。						参加者: 301人
17	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	976	0		
	縄文文化をより身近にとらえてもらえるよう、土器を3D計測により型取りし、それを活用してレプリカを製作するなど、次年度以降の事業に活用すべく当館独自のメニューを開発した。						

③育成・普及事業						
18	市民参加型創作ミュージカル「仙台ねこ」	参加者公募: 5~6月 稽古:8月~	日立システムズホール仙台 他	5,861	1,167	参加料 908 入場料 259
平成29年8月の上演に向け、市民とともに創り上げる舞台芸術創造事業としてミュージカルの制作に着手した。「仙台」と「ねこ」をテーマとし、作・演出に梶賀千鶴子、作曲は日高哲英に依頼。オーディションによる市民出演者127名が、8月からレッスンを開始した。出演者公募に加え、脚本に取り入れる愛猫エピソードを広く募集し市民参加の機会を複数設けた。またプレ企画「ねこ・プレ」を開催し、演出家らによるトークと出演者による試演を行った。 作・演出・振付:梶賀千鶴子 作曲:日高哲英 プロデュース:廣瀬純						入場者:447人
19	LECTURES/レクチュアズ	通年	メディアテーク他	5,063	0	
①高校生が、街の新たなアートの空間を構想し、その場所のデザインや活動内容を計画、発表するワークショップ「青少年のための生きる技術としてのゲージツ学校」を開催した。講師に美術家の森村泰昌、館長の鷺田清一、ワークショップ期間中のサポート講師に仙台出身で現代美術家のタノタイガを招き、高校生の活動を支援し、最後に公開で講演会を行った。 ②「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」事業にあわせて、各方面で活躍するゲストを招き、自身の活動や経験に基づいた考えを話すトークイベント「TALK(トーク)」を、仙台で活動するパートナーと協働し、ギャラリーなど市内各所で開催した。						①講評会 486人 ②TALK 721人
20	東京藝術大学音楽学部 早期教育プロジェクトin仙台	2/5(Vn,Vc) 3/26(Pf)	日立システムズホール仙台	874	0	
東京藝術大学音楽学部の教授陣が、地域で音楽に取り組む小・中学生を対象に公開レッスンを行った。受講料無料(事前審査あり)、聴講無料。ヴァイオリン部門は玉井菜採准教授が4名、チェロ部門は河野文昭副学部長が3名、ピアノ部門は角野裕教授が7名にレッスンを行った。なお、当日は藝大の学生による無料のランチタイムコンサートも開催され、2月5日はミルテトリオ(ピアノ三重奏)、3月26日は仙台出身の千釜有美子さんが演奏を披露した。						入場者: 2/5 210人 3/26 417人
21	舞台芸術見本市(芸術家派遣事業の成果等)	3/4~3/5	演劇工房10-BOX	1,160	0	
10-BOXの機能を活用して、芸術家派遣事業等で発表された舞台作品を中心に、多くの市民がまとめて鑑賞できる機会を提供。こども向けアウトリーチプログラムの見本市を開催した。						入場者:のべ1,027人
22	RE:プロジェクト 記録集出版準備	通年	—	0	0	
創造都市推進事業「RE:プロジェクト」(平成23~27年度)の、これまでの成果物(「RE:プロジェクト通信」5年目のRE:プロジェクト通信)をまとめて記録集を出版するため、当時の状況の変化や、現地の活動支援・調査を行うとともに、メモリアル交流館の事業の一部、反映するなど、記録集出版準備を行った。						
23	『コミュニティ・アーカイブのつくりかた』出版準備	通年	メディアテーク	55	0	
震災後実施してきた市民協働アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター」は、地域課題を様々な主体の参加を得ながら市民一人ひとりの目線でアーカイブする独自の取り組みとして、多くの共感と高い評価を得てきた。この活動記録をまとめ、事業を通じて得られたノウハウや成果、課題を共有し、次の世代に継承するために書籍を出版する準備を行った。						
④その他						
24	30周年共通業務	通年	—	4,414	0	
周年事業をまとめて広報するための共通パンフレットの作成や、季刊誌を増ページしての発行、設立以来の事業アーカイブの構築・整備等を行った。また、次年度に実施する30周年事業の準備を行った。						

## 2) 経常事業

①市民文化事業への支援事業						
25	支援・助成・協力事業	2回募集	—	19,082	19,082	市補助金19,082
市内で活動する団体・個人が行う芸術文化事業に対し、支援・助成・協力事業として公募により下記のとおり実施した。 ・支援事業:年4回発行の文化情報誌「季刊まちりょく」に市民企画事業の告知を掲載し、広報サポートを行った。 ・助成事業:6月と12月に募集し、募集ごとの助成審査会により資金援助を決定し交付した。 ・協力事業:特に公益性の高い事業や良質な文化事業についての事業団友の会会員への割引チケット斡旋協力の他、資料や機材の貸出、人材の紹介や派遣、企画協力、事務局への参画、会場協力などを行った。						支援:160件 助成:143件 協力:68件
26	名義後援	通年	—	0	0	
団体・個人が行う芸術文化事業に対し、名義後援を行った。						149件

②公演事業

27	宝塚歌劇花組全国ツアー仙台公演	9/17・18	イズミティ21	24,629	39,941	入場料 39,232 広告料 350 その他 359
<p>仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施した。第1部ミュージカル「仮面のロマンス」～ラクロ作「危険な関係」より～、第2部グランド・レビュー「Melodia～熱く美しき旋律～」を上演した。出演：明日海りお、花乃まりあほか、花組スター</p>						入場者：のべ5,800人
28	仙台クラシックフェスティバル2016	9/30～10/2	日立システムズホール仙台他	80,490	77,286	市負担金 23,000 入場料等 44,201 協賛金 10,085
<p>平成18年度に事業団設立20周年記念事業として創設し、11回目を迎えた今回は、「新しい才能、新しいせんくら」をキーワードとして、新しい魅力と若い力にスポットをあて事業を展開した。 ・ホール公演は、45分～60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しめる工夫をこらし、地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で87の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのほしご鑑賞を推奨した。 ・地下鉄駅コンサート、街なかコンサートの他、保育所や復興公営住宅集会所を会場に出演者が演奏する「出張せんくら」を設け、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力によりたくさんの方々に元気と希望、喜びを届けるフェスティバルとした。</p>						入場者：のべ38,000人
29	もりのみやこのふれあいコンサート	12/7	イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
<p>障害のある方とご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、地域の芸術文化活動の振興を目的に開催した。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏はリピーターも多く、回を重ねるごとに来場者数が増え、また、平成26年度から会場を日立システムズホール仙台コンサートホールからイズミティ21大ホールとしたことを反映し、これまでで最多数の車椅子の方からの入場希望が寄せられた。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。</p>						入場者：1,088人
30	新春いずみ寄席	1/9	イズミティ21	3,123	2,942	入場料 2,942
<p>新春の看板事業として春風亭小朝を招いて落語寄席を実施した。13時～、16時～の1日2回公演を行った。</p>						入場者：のべ783人
31	共催事業	通年	日立システムズホール仙台他	1,615	0	
<p>放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催。継続実施している仙台青葉能(5/14 負担金500千円)、文楽公演(10/3 負担金500千円)と小山実稚恵「音の旅」(5/8,10/23 負担金無し)、TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～の通年ワークショップ(負担金なし)に加え、当年度は仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会(4/10 負担金500千円)、「レクイエム・プロジェクト仙台2016」(10/9 レクイエム・プロジェクト実行委員会 助成金のみ)、「名曲の花束 ソフィア・ゾリステン&amp;リヤ・ベトロヴァ」(11/3 東日本放送 負担金無し)、「東芝グランドコンサート2017」(3/8 河北新報社 負担金無し)など、20件を実施した。</p>						

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

32	劇場・音楽堂等活性化事業 (仙台市青年文化センター文化庁補助事業) 経常実施分	通年	日立システムズホール仙台	77,808	77,319	入場料等 5,090 市負担金等 47,605 文化庁補助金 24,624
<p>地域の音楽をはじめ芸術文化を支えてきた日立システムズホール仙台からの発信事業。文化庁の補助金を受け、仙台市、(公財)仙台フィルハーモニー管弦楽団と共催し、下記のとおり実施した。 ①青少年のためのオーケストラ鑑賞会(7/6～8、10/18～21)：市内小・中学校の児童、生徒をコンサートホールに招き、本格的な鑑賞会を実施した。年齢層ごとのテーマによるプログラムを一万人以上の児童・生徒が鑑賞した。(全14回)。 ②名曲のちから「オーケストラ・スタンダード」シアターホールコンサートシリーズ&lt;劇場の音楽会&gt;全3回(12/10、2/18、3/1)：平成23年度からの継続企画。クラシック音楽の鑑賞中級者に向け、オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。当年度は、コンサートホール改修を背景に、シアターホールでの舞台要素を組み入れた新しい形のオーケストラ・コンサートを提示することにより、クラシック鑑賞者に新たな側面からの興味を生み出し、また舞台演劇関係者等他ジャンルからの関心を引き寄せる効果を意図した。 ③おとなのためのクラシック教室&amp;入門コンサート(1/31)：「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」のおとな版。クラシック音楽初心者に向けての、平日昼間開催・解説付きの本格的なオーケストラ・コンサートに、開演前の楽器体験コーナーなどのカルチャー講座的内容を組み込んで実施した。 ④こまつ座「紙屋町さくらホテル」(8/6)：「井上ひさし作品」という現代演劇のスタンダードを、井上戯曲の継承者であるこまつ座により上演。「紙屋町さくらホテル」は、広島への原爆投下という歴史を踏まえて、新国立劇場開場のために井上書き下ろした代表作。仙台では初上演となった。</p>						入場者： ①10,392人(全14回計) ②12/10 342人、 2/18 356人、 3/1 233人 ③176人 ④546人

33	仙台市青年文化センター活性化事業	通年	日立システムズホール仙台	3,631	402	参加費等 145 その他 257
<p>ホール施設等の利用促進に向けての活性化事業を次のとおり行った。</p> <p>①「こどもの夢ひろば“ボレロ”」(7/30,31):仙台市出身の著名ピアニスト 小山実稚恵による企画とタイアップし、こども向けのコンサートの他、様々な体験型コンテンツを全館を活用して実施した。</p> <p>②パフォーマンス広場活用プロジェクト(7/30,31):当館の特設施設であるパフォーマンス広場を利用しているアーティストにスポットをあてるプロジェクトを、当年度は「こどもの夢ひろば“ボレロ”」と連携して行った。</p> <p>③インド舞踊公演(9/15):震災復興の一環として、インド政府と共催によりマニプリ舞踊団の招へい公演を実施した。</p> <p>④ガス局共催料理教室(9/3,10/9,11/5,11/19,20,2/11):人気絵本に想を得た親子向けや備蓄食材を活用したものなど、各回テーマを設けた料理教室を市ガス局との連携等により開催した。</p> <p>⑤ホール見学会(10/11):昨年試行し好評を得たことをうけ、“音”をテーマにした見学会をコンサートホールを会場に実施した。</p> <p>⑥ギャラリー事業:3階ギャラリーと1階ロビーを活用し、仙台クラシックフェスティバルと時期をあわせた「アジアの青銅楽器展」など、地域や他事業との協働を視野に入れながら展開した。</p> <p>⑦地域連携事業:旭丘小学校の課外授業である「旭ヶ丘わんぱく森がっこ」の支援活動や地域町内会等と連携した「子ども神輿展」の実施など、近隣諸機関との連携協働を推進した。</p> <p>⑧次年度事業等調査事業:次年度事業に向けた調査を実施した。</p> <p>⑨コピーサービス事業:施設利用者用のサービスを継続して実施した。</p>						<p>入場者等:</p> <p>①3,068人 ②1,070人 ③400人 ④112人 ⑤19人 ⑥58,274人 ⑦810人 ⑧は収益事業</p>
34	仙台市泉文化創造センター 活性化事業	通年	イズミティ21	613	3	販売手数料 3
<p>指定管理者応募の提案事項を中心に次の事業を行った。</p> <p>①泉中央地区プレイガイド事業(通年):利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、イズミティ21を会場に実施される催し物の入場券を受託販売した。また、仙台市市民文化事業団主催のチケットも併せて取り扱い、仙台国際音楽コンクール及び仙台クラシックフェスティバルのチケットは専用端末を用いてコンピューター出力でチケットを販売した。各種催し物の入場無料の整理券配布についても積極的に取り組んだ。</p> <p>②市民協働ロビーイベント(年3回):施設のカラータブリ、活性化を目指して保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、入場無料で45分間の気軽に来場できるコンサートを実施した。〈1〉8/24 ママと赤ちゃんと大人のためのコンサート1(ピアノ吉田彩&amp;ヴァイオリン渋谷由美子)、〈2〉10/18ママと赤ちゃんと大人のためのコンサート2(ピアノ吉田彩&amp;マリンバ丹野富美子)、〈3〉2/15 たのしいおやこのファミリーコンサート(聖和学園短期大学保育学科と協働/ハンドベル&amp;劇あそび)。</p> <p>③ホール見学会(8/2、10/30～、14/30～の2回実施):普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験を行う体験型の見学会を実施した。小学生(4年～6年)と保護者を対象。夏休みに開催し、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらう内容とした。ステージでは参加者と同年代の地元で活動する子どもミュージカル劇団が模擬イベントを実施した。</p> <p>④ピアノ弾き込みボランティア(年5日):大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民登録ボランティアが5/17～18、10/10、2/22～23の5日にわたり、ピアノ弾き込みを実施した。</p> <p>⑤市民ギャラリー・エントランスロビー展示(各1回):市民ギャラリーでは6/13～19に仙台出身でパリで活躍中のプロカメラマン吉田タイスケの写真展「ミツオジャン(父・75歳)」を実施した。また有料施設以外の活性化とサービス提供の一環として11/5～24に東北生活文化大学と協働で、エントランスロビー各所のガラス壁面にステンドグラス風の平面美術作品の展示を行った。</p>						<p>①は収益事業参加者</p> <p>②(1)487人 (2)341人 (3)236人 ③のべ93人 ④のべ11人</p>
<p>④ミュージアム活性化事業</p> <p>ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。</p>						
35	れきみん秋祭り	10/22、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,441	1	刊行物販売 1
<p>歴史民俗資料館と10-BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の11回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催した。</p>						参加者:5,286人
36	猿舞座のさるまわし	6/12	榴岡公園 歴史民俗資料館	28	0	
<p>榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の8回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気です。伝統芸と親しんだ。</p>						参加者:521人
37	朗読公演 「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」	8/6	歴史民俗資料館	28	0	
<p>朗読「リラの会」による「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」の4回目の公演。終戦記念日に近い日程で常設展示「農家の台所コーナー」において上演し、仙台空襲をより身近に、効果的に観覧者に伝えることができた。</p>						参加者:13人
38	朗読公演 「あの日、あの時、私の記憶」	2/19	歴史民俗資料館	29	0	
<p>朗読「リラの会」により、2011年3月11日の体験記『東日本大震災の体験文集Ⅱ』をもとに構成された朗読作品を、効果的な音響と照明のもとで上演した。</p>						参加者:31人
39	smtホスピタリティ向上事業	通年	メディアテーク	912	0	
<p>①環境整備事業:子育て世代の親子連れの利用促進に向け、館内の空間を効果的かつ魅力的に活用できるような「場」づくりとして、ダンボールのトンネルや島に見立てたカーペットで空間を構成し、小さな子どもたちが安心して遊ぶことのできる場(こどもスクエア)を提供した。</p> <p>②メディアによる2階映像音響ライブラリー活性化事業:2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業の「シネバトル」を年4回開催した。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library &amp; theatre (我がライブラリー&amp;シアター)」という意識をもつ利用者を育んだ。(最終回はグランドチャンピオン大会、その後には上映会を開催)。</p>						<p>①こどもスクエア1,047人 ②284人</p>

40	活版印刷ワークショップ事業	通年	メディアテーク	97	0	年間ワークショップ参加者: のべ148人
メディアテークに寄贈された活版印刷機を使用可能な状態で保存し、デジタル製版主流の現在においてオールドメディアとしての活版印刷の技と術を継承する人材を育てると共に、貴重な活版の道具類のミニ展示やワークショップを開催し、広く普及を図った。						
41	体験教室「親子でつくろう古代米」	5月～11月	富沢遺跡保存館他	567	137	古代米販売 111 参加料 26  のべ220人
富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行った。親子での協働作業を通じて、古代からの生業を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会となった。また、近隣の小学校や地域と連携して事業を展開し、富沢遺跡保存館が地域活性化の拠点となることを目指した。当年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、歴史民俗資料館との連携もいながら事業を行った。						
42	ミュージアムフォトコンテスト「氷河期の森・縄文の森の風景2016」	5月～3月	富沢遺跡保存館他	300	0	応募作品40件
都市化が進む太白区長町～山田地区にとって、富沢遺跡保存館・縄文の森広場の野外展示は貴重な緑地として地域住民に親しまれているが、より多くの市民に両館の野外展示について楽しみながら知っていただくことを目的として、その魅力を1枚の写真で表現してもらい、コンテストを行った。作品は広く一般から募集した。						
43	ミュージアム・シアター「狩人登場」	5月～2月	富沢遺跡保存館	798	0	
市内を中心に演劇等の表現活動をする身体表現ユニット「短距離男道ミサイル」による、先史時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指した。30周年事業として拡大実施し、ここでは経常事業分のみを掲載。						
44	冬キラ☆今日の主役は氷河期の森	12月	富沢遺跡保存館	539	0	のべ765人
地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的として行った。当年度も学生へ参画を呼びかけ、「氷河期の森」の活用を図った。						
45	縄文祭復元事業	通年	縄文の森広場	1,189	0	参加者:301人
縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、「まつり」の復元創造を目指して調査研究活動を行い、その成果を市民と共に公開した。前年度に引き続き、これまで復元製作してきた楽器を演奏する成果公開イベント「縄文人の記憶の宴」を、規模を拡大して実施。館の独自事業と位置づけ全国に発信した。						
46	学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」	通年	縄文の森広場	160	0	
山田上ノ台遺跡および縄文文化について学んでもらうイベントとして、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、土器片型に似せたクッキー「ドッキー」づくりイベント「ドッキーをつくろう」を外部講師を招いて実施した。縄文の森広場、または地域の小学校や市民センターを会場とし、より身近に縄文文化をとらえてもらえるような2～3時間程度のイベントとして実施した。30周年事業として拡大実施したが、ここでは経常事業分を掲載。						
47	ライブ文学館	①9/30 ②11/4	①メディアテーク ②宮城野区文化センタ	1,933	574	①入場料 279 ②入場料 295  入場者: ①173人 ②144人
ホール、ギャラリーなどを会場に、朗読、音楽、映像、演劇などを交えて、文学作品をひとつのステージとして構成するイベント。文学との出会いの場を広げ、「文学が息づく都市」仙台の新たなブランドを醸成することを目的に、当年度は次の通り開催した。 ①「小さなのちを考える～映画上映会&トークライブ」: 秋の特別展「猫と文学」の連動イベントとして開催。猫をテーマにした絵本作品のリーディングとピアノ演奏、そして捨て猫保護活動のドキュメンタリー映画の上映と、関係者によるトークの二部構成で実施した。 ②「方言を味わう、方言から考える 井上ひさし『吉里吉里人』の世界」: 第一部をウイリーささきによる、「吉里吉里人 第二章 俺たちの国語ば可愛がれ」の朗読、第二部を、赤坂憲雄(学習院大学教授)と小森陽一(東京大学大学院教授)による対談『「吉里吉里人」から考える地方の姿』で構成した。この対談部分が、『文藝』2017夏号に掲載された。						
48	仙台文学館まつり	8/20	仙台文学館	135	5	その他 5  入場者:1,074人
平成21年度に開催し好評を得た「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続開催。文学館に一層親しんでもらうことを目的に、夏休みのことも文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れた読み聞かせのステージやクイズラリーを実施。景品に秋の企画展の集客につながるような仕掛けをし、リピーターを増やす工夫をした。						
49	ミュージアムグッズ開発・販売事業	通年	各ミュージアム他	575	1,194	刊行物販売 774 その他 420  収益事業  *収支は損益ベース
ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。 ①富沢遺跡保存館グッズ: 氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ(氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等)、編布グッズ(コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ)を販売。(支出83千円、収入56千円) ②縄文の森広場グッズ: 縄文の森広場ボランティアスタッフによる手作りの勾玉など、商品の製作と開発。(支出68千円、収入100千円) ③仙台文学館グッズ: 前年度までに制作し来館者の記念品などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、秋の特別展に合せた関連グッズを販売し来館者のニーズに応えた。(支出83千円、収入259千円) ④メディアテークグッズ: 平成25年度、平成26年度、平成27年度の3年にわたりカネイリと共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売を行った。(支出46千円、収入568千円) ⑤歴史民俗資料館グッズ: 昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売。(支出295千円、収入211千円)						

**⑤劇都仙台2017事業**

都市文化を支える芸術として演劇の総合性と公益性に着目し、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑥の体系に基づき実施した。  
 ①クリエイターの育成 ②活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ③教育や福祉など他ジャンルとの連携 ④良質な公演の機会の拡大  
 ⑤情報交流や協働 ⑥関連調査や研究など

50	10-BOX鑑賞型プロジェクト	通年	演劇工房10-BOX他	4,525	3,670	市補助金 3,670
①戯曲賞大賞受賞作品リーディング公演:優れた戯曲や良質な作品を広く市民に対して鑑賞の機会を提供するため、せんだい短編戯曲賞の大賞作品のリーディング公演を実施した。(3/18) ②杜の都の演劇祭:市内の劇場や飲食店等の劇場空間を活用して主催・共催等の演劇公演を行い、鑑賞層の拡大(創客)を図った。(12/15～2/5 ; 31日間47公演)						リーディング公演入場者:53人 演劇祭:のべ805人
51	10-BOX夏の学校	7/29～8/7	演劇工房10-BOX	2,033	1,261	市補助金 1,071 受講料 190
夏期学校のスタイルをとる人材育成プログラム。演劇の手法を用いて、創造・思考・表現を磨き、視野を広げる集中講座。広く一般を対象に、参加者が自分自身の中に潜む創造力と思考力を発見できることを狙いとした、造形、身体表現のワークショップを実施した。講師:ヤコ・キムラ、ヴァレリー・モアイオン						対象者:39人 一般公開来場者:のべ134人
52	市民能楽講座	9/22	日立システムズホール仙台	3,943	3,943	市負担金 2,312 入場料 1,631
「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。今回は、観世流の能公演(9/22)を日立システムズホール仙台(青年文化センター)シアターホールで、講座も併せて実施。 演目:観世流 能 葵上(シテ 木原康之)、和泉流 狂言 寝音曲(シテ 三宅近成)						入場者:600人
53	せんだい短編戯曲賞	通年	演劇工房10-BOX 他	1,705	1,705	市補助金 1,705
演劇の根底となる戯曲をつくる若手劇作家の活動にスポットをあてる「第4回せんだい短編戯曲賞」を開催した。前年度に募集した作品から、選考委員(制作者)5名が大賞2作品を選考。また、最終候補作品12作品を冊子化し、併せて次年度の募集を行った。						
54	舞台スタッフ☆ラボ	1/30～2/19	演劇工房10-BOX他	847	847	市補助金 521 受講料 176 負担金収入 150
舞台技術や演出効果の技術及び技能者を養成・育成することを目的に、初心者も参加できる内容で、演劇工房10-BOX、宮城野区文化センター、日立システムズホール仙台他で実践的な講座やワークショップを行った。						対象者:67人
55	能-BOX 経常事業	通年	能-BOX	716	716	市補助金 618 受講料 98
能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中辻晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行った。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓も図った。						来場者:のべ688人
56	共通経費(事業間連携活動等)	通年	演劇工房10-BOX他	1,307	304	市補助金 101 刊行物販売 203
ホームページの更新をはじめとする劇都仙台事業や宝塚公演事業、有償事業等の共通業務、また教育や福祉など他の専門組織との協働事業やせんだい短編戯曲賞の冊子販売を行った。						
57	演劇-社会アクセス事業	通年	演劇工房10-BOX他	315	115	県負担金 115
教育や福祉現場での課題を、演劇へのアクセスが少ない潜在的なニーズととらえ、演劇のコミュニケーション能力を育む機能を応用したワークショップを行った。現場に必要な指導者(ファシリテーター)の育成やプログラムの研究開発、また課題を解決するためのワークショップも実施した。さらに教育現場での演劇の次代の担い手である高校演劇部に重点支援するため、高等学校演劇協議会と共催し、地区大会等を支援した。						対象者:100人
58	音声学ワークショップ	通年	演劇工房10-BOX	0	0	
磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ、専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者の指導も行い、3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行った(3/26)。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。						対象者:70人
59	大衆紙芝居ネットワーク事業	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
当事業団が企画した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行った。						対象者:10人

**⑥創造都市推進事業**

仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。

60	地下鉄駅コンサート	9/24・25 10/1・2	地下鉄駅構内	903	903	市負担金 903
仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催した。						出演:30組120人 来場者:のべ6,060人 (当日パンフ配布数)

⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業						
61	仙台市文化プログラム公募・共催事業	1月～3月	—	1,270	1,270	市負担金 1,270
<p>オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における様々な資源を生かした事業を推進し、新しい成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果がオリンピック・パラリンピック終了後も地域の「レガシー（文化遺産）」として未永く継承されていくことを目的とした「仙台市文化プログラム事業」として、下記の2事業を実施した。</p> <p>①仙台市文化プログラム企画提案募集事業 次年度以降、仙台市で実施する文化プログラムとして、どのような分野や内容等がふさわしいかを幅広く検討するため、仙台市と共管で企画提案を公募し、企画書作成事業を選定した。（応募件数30件、選定件数6件）</p> <p>②熊谷和徳 光のペーजेント・パフォーマンス 当事業団主催による文化プログラムモデル事業として実施。仙台出身の世界的タップダンサー、熊谷和徳氏による野外ミニ・タップショーを、仙台の冬の風物詩「光のペーजेント」のイルミネーションを背景として開催した。（12/20、定禅寺通スクエアビル前）</p>						②観覧者：180人
⑧育成・普及事業						
主にアウトリーチの手法により、子どもや市民に芸術文化に触れる機会を広く提供した。						
62	芸術家派遣事業	5月～2月	各学校・地域	0	0	
「仙台市震災復興のための芸術家派遣事業実行委員会」が文化庁から受託し、学校や保育所等128箇所子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。当財団は事務局の中核として文化庁との調整、実務統括、会計等を担当。実行委員会の決算規模は1,700万円。また仙台市の負担金により、この事業の効果を一層高めるため、①中学校での複数回実施派遣事業 ②広報・アーカイブ用ウェブページ制作 ③実施小・中・高校生対象のアンケート調査 ④アーティスト同士での現場参観の研修を行った。						学校や保育所等128箇所
63	ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー レッスン	7/19～23	イズミティ21	2,435	990	受講料 990
若手の育成を図るため、世界の最高峰に位置するロシアのバレエ学校を招請し、地元の教室に通う生徒を対象に、5日間にわたる特別集中レッスンを実施した。						受講者：33人
64	こんなに素敵なクラシック!Vol.2～フルートに魅せられて～	9/10・11	日立システムズホール仙台	815	205	入場料等 205
「日伊交流150年」を記念し、人材育成事業としてヴェネツィアから来日したフルートの演奏家を招き、ワークショップとコンサートを行った。 フルート演奏及び講師：フェデリカ・ロッチェ（ヴェネツィア／ベネデット・マルチェッロ国立音楽院教授）						ワークショップ受講者：8人 公演入場者：75人
65	アーティストマネジメント事業	9/5～9、9/15	各学校・地域	557	660	その他 660
当年度はパーカッション奏者齋藤寛氏によるアウトリーチを、大和町立小学校6校（吉岡小学校、宮床小学校、鶴巣小学校、落合小学校、小野小学校、吉田小学校）で実施。鑑賞（齋藤寛ドラムパフォーマンス）と参加（パーカッションで合奏）の両方の体験を行った。						対象児童：495人
66	ワークショップ「文学館でことばを楽しもう」	3/29	各学校・地域	112	0	
小学校の児童生徒向けに、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラムで、利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とすることを目的とした事業。交通の便が必ずしも良くない文学館への来館・利用のハードルを低くするため、市内小・中学校用にバスを手配。当年度は、3月の春休み期間に、大崎市田尻の「沼部放課後児童クラブ」と連携。児童生徒と児童館職員が来館し、民話語り聞いた後、しおりづくりワークショップや常設展示室を見学してワークシート記入などの体験活動を行なった。						参加者：30人
⑨出版及び作品収集事業						
事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。						
67	仙台文学館刊行物販売事業	通年	—	0	135	刊行物販売 135
『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』など、仙台文学館セミナーの成果品や講義録として出版した刊行物を、継続して販売した。						
68	『仙台戯曲賞シリーズ』販売	通年	—	0	8	刊行物販売 8
「仙台劇のまち戯曲賞」大賞受賞作品の上演機会を広げ「劇都仙台」を内外に発信することを目的に、『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を、窓口販売の他、webサイトからの申込により継続販売した。販売価格は1,000円（税別）。販売作品『開光る』『ドドミノ』『ミチユキキキサラギ』はだか道。						
69	市民文化事業団ブックレット『文化芸術の社会再生力』販売	通年	—	1	2	刊行物販売 2
事業団創立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における井上ひさし氏他による鼎談と平田オリザ氏による講演録を採録し、平成20年度末に出版したブックレットを継続販売した。						
⑩広報事業等						
70	広報事業	通年	—	5,301	5,070	市補助金 5,070
文化情報誌『季刊まちりよく』の発行（年4回）を継続し、当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介した。また紙媒体と連動し、速報力のあるホームページを運営（アクセス件数：年93,836件）したほか、報道機関等への情報提供を随時行った。						

71	市民文化事業団友の会運営	通年	—	3,003	1,685	友の会会費 1,685
	市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。月例通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行サービスの提供等を行った。年会費1,000円。					会員:1,685人
72	事業団事業全体にかかる共通業務	通年	—	2,126	0	
	事業全体の調整、新事業の企画・開発、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の業務。					

## (2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業						
第6回仙台国際音楽コンクールを開催した。						
73	事務局運営	通年	日立システムズホール仙台	13,308	13,308	市負担金 13,308
	コンクール事務局の運営を行った。					
74	委員会運営	通年	仙台市内・東京都内	7,158	7,158	市負担金 7,158
	組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催した。					
75	コンクール事業	通年	日立システムズホール仙台	204,345	204,345	市負担金 157,368 助成金 1,800 事業収入 45,177
	第6回コンクールを開催した。 ・ヴァイオリン部門は5/21から6/5に開催。ピアノ部門は6/11から6/26に開催した。 ・32の国と地域から申し込みのあった370名のうち、DVD等による予備審査を通過したヴァイオリン部門32名、ピアノ部門34名が出場した。					入場者:9,012人
76	広報事業	通年	日立システムズホール仙台	45,766	45,766	市負担金 45,766
	コンクール開催に係る広報活動、印刷物作成、開催期間の会場装飾等を行った。 コンクール開催期間中は、インターネットで世界中に動画配信を行った。					
77	ボランティア事業	通年	日立システムズホール仙台	2,289	2,289	市負担金 2,192 入場料等 97
	第6回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行った。 ①ボランティアリーダーミーティングの開催と第7回に向けたリーダー体制の整備 ②会場運営サポート:コンクール及び関連事業等の会場運営 ③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「Map for The SIMC Contestants」(Web版及び印刷物)製作、ボランティアブログ運営等 ④出場者サポート:コンクール期間中の出場者に対する通訳サポート、コンクール関連事業等の通訳サポート、交流サロン運営等 ⑤ホームステイ受入れ:コンクール出場終了後の出場者を対象にしたホームステイの受入れ ⑥出場者による主催者公募型コンサートの運営サポート					
78	第6回仙台国際音楽コンクール優勝者副賞コンサート	通年	東京都他	5,537	5,537	市負担金 5,117 その他 420
	・第6回コンクール優勝者の副賞として、国内オーケストラの演奏会に出演する機会を提供した。 3/26 チャン・ユジン 東京交響楽団との共演(ミュゼザ川崎シンフォニーホール) ・第6回コンクールのライブ録音CDの制作及び販売を行った。 ・平成29年度以降に実施するリサイタル開催、国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供、CD録音などの準備を行った。					入場者:1,275人
79	仙台国際音楽コンクール関連事業	通年	市内各所	4,247	4,247	市負担金 4,247
	・コンクール開催期間中に、審査委員によるマスタークラスを開催した。 ・コンクール開催中に、予選を通過しなかった出場者による「チャレンジャーズ・ライブ」及び「学校訪問ミニ・コンサート」等を開催した。 ・平成29年度事業の準備を行った。					入場者:4,614人

## (3)ジュニアオーケストラ運営事業

80	仙台ジュニアオーケストラ運営	通年	日立システムズホール仙台他	27,672	27,572	市負担金 16,246 受講料・入場料等 11,326
	仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。音楽監督は平川範幸に委嘱、通年の練習等の指導は仙台フィルハーモニー管弦楽団の楽団員が行った。 定例の演奏会を以下のとおり開催した。 10/15 第26回定期演奏会(日立システムズホール仙台) 3/20 2017スプリングコンサート(イズミティ21) 以下の演奏会等に参加した。 8/21 ジュニアオーケストラ・フェスティバル2016 in NIIGATA(りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール) 6/18、7/1 ウィーン・フィルメンバーによるワークショップ(日立システムズホール仙台) 10/16 ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金「こどもたちのためのコンサート」特別公演 ～岩手・宮城・福島のこどもたちとウィーン・フィルメンバーによる夢の共演～(サントリーホール)					団員定員:122人 入場者:4,823人

## (4) 演劇系練習施設運営事業

(単位;千円)

81	せんだい演劇工房10-BOX運営	通年	演劇工房10-BOX (能-BOX)	25,649	25,649	市補助金 19,368 利用料等 6,281
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。					利用者 10-BOX:35,502人、 能-BOX:3,157人 収益事業を含む

## (5) 震災メモリアル交流施設管理運営事業

82	せんだい3.11メモリアル交流館管理運営	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	42,216	42,216	市受託料 42,188 受講料他 28
	地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営を、4月から仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。仙台市の東日本大震災メモリアル施設として位置づけられた当施設において、職員常駐の枠組により、仙台東部沿岸地域をはじめ様々な住民・市民の交流の場として親しみやすい運営に努めるとともに、以下の事業を幅広く展開した。加えて、常設展を含めた館全体の管理運営業務についても一定の役割を担った。 2階展示室:企画展を4回実施。また関連企画を施設の内外で多数実施した。 2階スタジオ:ワークショップ、セミナーの他、語り継ぎボランティアと協力した視察対応を行った。 1階交流スペース:地域の活動団体や学校などと協力し展示、コンサート等イベントを実施。 3/11は献花台の設置に合わせて、開館時間を延長し屋上庭園を解放した。					来館者:55,366人

## (6) 芸術文化受託事業

(単位;千円)

83	市制施行127周年記念コンサート	7/4	イズミティ21	4,075	4,075	市受託料 4,075
	仙台市の市制施行記念式典の一環として仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会を開催した。ソリストには、第5回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第3位の富井ちえりさんを迎えた。					入場者数:1,266人
84	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	14,582	14,582	市受託料 14,582
	東日本大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存する「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には、①参加者が写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料を一部選別し、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用を行った。また、ふくしま震災遺産保全プロジェクトと共催して「震災と暮らしー震災遺産と人びとの記録からふりかえる」(12/20-12/25)を開催した。同プロジェクトが調査・収集してきた物や写真と、「わすれん！」の参加者が記録してきた映像・写真等、あわせて115点を、震災の中の「暮らし」という視点からふりかえるとともに。また関連イベントとして「トーク:残されたものの意味を探る」として、両プロジェクトの震災資料や活動を報告した。					公開コンテンツ映像 16本、 写真477枚、 ウェブ閲覧数約463万 回、 「震災と暮らし」8081 人、 「関連トーク」147人

## 2. 定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等見込・備考

(単位;千円)

## ① 仙台文学館普及啓発事業

85	特別展・企画展の関連事業	各展示の 開催時期	仙台文学館	740	740	市補助金 740
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えた。 ①特別展「まど・みちおのうちゅう」関連:「六月の歌声」(指揮:今井邦男)による、まど・みちお作品の合唱コンサートを開催した。 ②「こども文学館 えほんのひろば」関連:絵本作家・西巻茅子を迎えての講演会とギャラリートーク、市内で活動するグループによるお話会や、ワークショップなどを開催した。 ③特別展「にゃんてったって猫〜猫と人間の物語」関連:岩谷光昭によるトークとサイン会、猫のフェルト作品を作るワークショップなどを開催した。 ④企画展「井上ひさし資料特集展Vol.6」関連:展示室内でのコンサート、読書会などを実施した。					参加者:のべ2,054人
86	ことばの祭典ー 短歌・俳句・川柳への誘い	6/19	仙台文学館	398	398	市補助金 398
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題「小(しょう、こ、ちいさい)もしくは、「山(やま、さん)」に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選んだ。					参加者:のべ100人
87	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,127	2,298	受講料 2,298
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図った。 ①小池光短歌講座:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回の開催。記録集も作成した。 ②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3~5回連続で開催した。 ③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらった仙台朗読祭を12月に開催した。また、地元詩人と、児童館の連携によるポエトリーディングと朗読劇を、夏休みの時期に合わせて開催した。					①801人 ②2,365人 ③110人

88	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	0	0	
県内高等学校の文芸部の活動の支援のほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行った。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシートを配布した。						
89	学芸員出前講座	通年	—	0	0	
市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。						
90	情報誌の発行	通年	—	1,075	1,075	市補助金 1,075
文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続した(31号、32号)。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。						
91	こどもの本の部屋の運営	通年	仙台文学館	0	0	
絵本を中心にこどもの本が自由に読めるコーナーとして運営。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図った。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施した。						
92	文学館友の会・土井晩翠顕彰会の支援	通年	—	0	0	
両会の事務局を担当。友の会は文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。顕彰会は晩翠わかば賞・晩翠あおば賞をはじめ、晩翠忌記念イベントなどの事業を実施した。						
93	出版物等の販売	通年	—	783	612	市補助金 40 刊行物販売 572
小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展開連の物品も館内で継続して販売した。						

### 3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等見込・備考
(単位;千円)						

#### ①せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業

94	調査と表明 (1)R&D	通年	メディアテーク	19,622	19,622	市補助金 7,760 入場料収入 1,731 助成金 10,131
国内外で活躍するアーティスト(芸術家)や地域の市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題をリサーチ(調査)し、その成果を展覧会などによって発表(表明)することで、再び地域へ還元していく事業。 ①展覧会「 <b>畠山直哉写真展 まぶたつの風景</b> 」(11/3~1/8):陸前高田市出身の写真家・畠山直哉が取り組む「風景」に着目した展覧会。本展は畠山の初期から現在までの作品約200点と、震災後、変わりゆくふるさとを毎月撮影してきた「陸前高田」の作品と写真家のメモともいえる「コンタクトシート」を並べて展示した。また、詩人の佐々木幹郎、漫画家のいがらしみきお、写真家の志賀理江子を迎えた「対談」の他、畠山のドキュメンタリー映画の上映、てつがくカフェ(全三回)など対話の場を通して風景が持つ二面性や両義性、畠山の表現と現在の社会との関係性を探った。 ②アーティストリサーチ(1/14~2/21):アーティストグループ(ヒスロム)を招聘し、平成30年度の展覧会にむけた調査を開始した。また、トークイベントや、ラウンジにおける展示等とおして調査の過程そのものを広く公開した。						
95	調査と表明 (2)R&D	通年	メディアテーク	3,896	3,896	市補助金 896 助成金 3,000
市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意した。 ① <b>スタジオ情報発信</b> :「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力の醸成、市民の主体的な社会参画が文化面から活性していくことを目指した。あわせて、スタジオ協働事業や地域文化アーカイブなどの事業を7階ラウンジにおける展示を通じて広く発信を行った。 ② <b>地域文化アーカイブ</b> :市民の自発的な地域文化財のデジタル化、保存、活用を促す取り組みを行った。成果物は、メディアテークに保存し、ライブラリーへの配架、ウェブサイト等での発信、またそれらをもとにした催事を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。						
96	発信・施設活用推進	通年	メディアテーク	3,896	3,896	市補助金 3,651 刊行物等販売 73 助成金 172
館長を軸とした発信事業と併せて、各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークの展開を図った。 ① <b>バリアフリー・デザイン事業</b> :目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民協働で行った。成果物を活用した上映会等や、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた講座の開催など一連の取り組みを行った。 ② <b>館長発信事業</b> :発信力ある館長の鷲田清一を軸に、著名なゲストとのトーク等の開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示した。その際、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努めた。 ③ <b>地域文化連携・施設活用推進</b> :各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な共催事業を実施した。さらに、市民図書館と協働で「とぶらすウィーク」や「スクエア図書館」を開催し、図書館のさまざまな使い方や関わり方を紹介する機会を作った。また、取り組みがひろく市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んだ。						

97	せんだい・アート・ノード・プロジェクト	通年	メディアテーク他	27,133	27,133	市補助金 26,633 助成金 500
<p>優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合う事業を展開した。初年度となる当年度は、アーティストユニットのKOSUGE1-16が、大正時代の仙台の児童文化運動に関する調査をもとに企画・構想した展覧会、こどもアートひろば「アッペトツペ=オガル・カタカナン記念公園」(会場:国際センター駅2階青葉の風テラス)の開催のほか、仙台で活動するパートナーと協働で企画・実施するトークイベント「TALK(トーク)」、スー・ハイドゥ氏によるリサーチプロジェクト「仙台商人プロジェクト」、自由参加型公開会議「MEETING(ミーティング)」の実施、アーティストのリサーチ拠点の開設準備などに取り組んだ。また、これらの事業の取り組みを広く発信するため、情報誌「JOURNAL(ジャーナル)」やウェブサイトなどを通じて、事業に関する情報発信やアーカイブを行った。</p>						<p>総参加者 7,416人(うちアッペトツペ=オガル・カタカナン記念公園 6,000人)</p>

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				入場者数等見込・備考

(単位:千円)

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

98	仙台市歴史民俗資料館 管理運営	通年	歴史民俗資料館	61,512	61,512	市指定管理料 61,512
<p>歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行なった。</p>						
99	仙台市歴史民俗資料館 常設展示	通年	歴史民俗資料館	401	401	市指定管理料 401
<p>「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、被災地関連展示を行った。</p> <p>入館者:33,955人</p>						

①特別展・企画展及び関連事業

100	特別展「仙台・昔と今の暮らし」及び関連事業	11/19～4/16	歴史民俗資料館	1,265	1,265	市指定管理料 1,265
<p>高度経済成長時代を迎える以前の暮らしの様子を「衣」「食」「住」において、現代の暮らしと対比させながら紹介しつつ、新しい道具の登場によって変わった人々の生活について考える展示として実施した。展示内容は「昔の暮らし」を学ぶ小学校3年生の社会科の内容を意識したものとし、さらなる学校利用の促進をはかり、小学生の父母、祖父母がかつての暮らしを思い返すきっかけとなるように努めた。</p> <p>観覧者:9,341人</p>						
101	企画展「仙台の祭りと年中行事」及び関連事業	7/2～11/6	歴史民俗資料館	1,566	1,566	市指定管理料 1,566
<p>正月と七夕・盆などの年中行事や、神像、御札、釜神など家で祀る神々、また農耕儀礼における魔除け、虫除け、託宣の行事、さらには都市の祭礼と芸能などを通して、仙台地方の祭りや年中行事の移り変わりについて、庶民の祈りと暮らしの視点から展示紹介した。</p> <p>観覧者:11,957人</p>						
102	企画展「水と人の暮らし」及び関連事業	4/29～6/19	歴史民俗資料館	354	354	市指定管理料 354
<p>日本人の暮らしの中のあらゆる場面で欠かせない「水」。田んぼに水を引き込むジャバラや、水力で動く水車、井戸端で使ったせんたく桶や米洗いざるなど多岐にわたる「水」にまつわる様々な生活道具を展示紹介した。</p> <p>観覧者:9,521人</p>						
103	講座・体験イベント等	通年	歴史民俗資料館	38	38	市指定管理料 38
<p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくよう実施した。</p> <p>②子ども講座(7月、3月):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。</p> <p>③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/29～5/8までの8日間):なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき、こままわし、フラフープ、ホッピング」などの遊びの体験してもらった。</p> <p>④クイズラリー(夏休み・冬休み):クイズやパズル形式での自主見学学習として実施した。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8月、10月、2月):展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/15):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。</p> <p>観覧者:7,736人</p>						
104	資料館だより等の発行	通年	歴史民俗資料館	100	100	市指定管理料 100
<p>資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、榴ヶ岡町内会、五輪町内会、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習に資した。</p>						
105	歴史民俗資料の収集・保管	通年	歴史民俗資料館	2,138	2,138	市指定管理料 2,138
<p>資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集第15冊」をまとめ刊行した。</p>						
106	調査報告書の発行	通年	歴史民俗資料館	602	602	市指定管理料 602
<p>仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書第35集」にまとめ、刊行した。</p>						
107	学校教育との連携	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
<p>学校教育との連携促進を目的として実施する事業。100校を超える市内外の小学校3年生が、社会科の学習の一環として見学に訪れ、石臼挽きなどを体験を行った。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。</p>						

## (2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

108	仙台市富沢遺跡保存館 管理運営	通年	富沢遺跡保存館	80,938	80,938	市指定管理料 80,938
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。					
109	仙台市富沢遺跡保存館 常設展示	通年	富沢遺跡保存館	13,788	13,788	市指定管理料13,788
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行った。 富沢遺跡保存館開館20周年・縄文の森広場開館10周年記念事業として、当館と縄文の森広場が連携して「氷河期の森・縄文の森観察会 杜の都原風景」見学会を実施した。					
①特別展・企画展						
110	特別企画展「いにしへの石の道具」	7/15～9/22	富沢遺跡保存館	1,958	1,958	市指定管理料 1,958
	開館20周年記念事業として先史時代の精神文化を題材として展示を行った。先史時代の人々にとって、自然は生活のすべての場面に多くの影響を及ぼすものであり、自然環境・自然現象に対する祈りや畏れは残された遺跡や遺物に表現されている。 当企画展では、東北地方や関東地方の遺跡を中心として先史時代の精神文化に関わる遺構や遺物などの研究成果を紹介した。					
111	企画展「仙台の遺跡⑤ 地下鉄沿線の遺跡」	4/15～6/19	富沢遺跡保存館	44	44	市指定管理料 44
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。当企画展では、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は地下鉄東西線開業を記念して、東西線・南北線建設に関連する遺跡を取り上げ、発掘調査で出土した資料とともに紹介した。					
112	企画展「アジアのなかの東北日本旧石器時代」	10/14～12/18	富沢遺跡保存館	85	85	市指定管理料 85
	東北大学大学院文学研究科・東北大学総合学術博物館との共催企画として行った。東北大学が所蔵する、仙台市内及び日本列島各地の後期旧石器時代の遺跡出土資料を中心に、同時期のアジアの遺跡や文化と比較しながら展示を行った。					
113	企画展「地底の森ミュージアム2016」・「ミュージアムフォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2016」作品展	1/17～3/13	富沢遺跡保存館	19	19	市指定管理料 19
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会、友の会の活動等を紹介するとともに、フォトコンテスト氷河期の森・縄文の森の風景2016の作品展の展示を行った。					
114	講座・体験イベント・ボランティア事業等	通年	富沢遺跡保存館	1,853	1,853	市指定管理料 1,853
	<p>①考古学講座(2/18・19、3/4):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。第1回目は開館20周年・10周年記念事業として2/18・19に縄文の森広場と連携して実施した。第2回は当館のみで実施した。いずれも一般市民を対象として開催した。</p> <p>②体験学習(通年):石器づくりや石器の使用体験を通して古代人の技術を学ぶ体験型事業。ゴールデンウィークや特別企画展期間中、小中学校の秋休み期間中には手づくり工房体験学習として石器づくりや木の実などを使った人形づくりを実施した。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年):当館学芸員が体験教室や読み聞かせ、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物などの説明会を行った。原則として毎月2回、日曜日に開催した。手話通訳を取り入れて実施した回もあった。</p> <p>④地底の森フェスタ2016(10/10):屋外を会場とし自由参加の形態で開催した。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行い、ボランティア会とともに企画を実施した。</p> <p>⑤利用学習事業(通年):市内小学校(小学校5・6年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習を行った。実施後、実践集録を作成・Web公開。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から、次年度の活動に活かしていくため分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。</p> <p>⑥市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による15名を対象に、1年間にわたり週1回館学芸員が支援する活動日を設け、その成果を活動報告書にまとめた。</p> <p>⑦ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者および公募による申込希望者に、展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアスタッフとして活動してもらうために、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。</p> <p>⑧地底の森ミュージアム友の会活動の支援(通年):博物館活動の啓発を目的とする友の会活動を、活動内容への助言や講座への講師派遣などを通して支援した。</p> <p>⑨地域や大学との連携:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生サポーターの協力により事業を行うなど、地域や大学との連携を強化するための事業を行った。</p>					
115	研究報告の刊行	通年	富沢遺跡保存館	129	129	市指定管理料 129
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の館職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果をまとめた「研究報告」を作成。今年度は、2/18に開催したシンポジウムの発表内容を掲載する内容とした。					
116	ポスター・図録等の印刷・刊行	通年	富沢遺跡保存館	859	859	市指定管理料 859
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成。特別企画展については展示図録も刊行。					
117	資料の収集・保管	通年	富沢遺跡保存館	0	0	
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。					

118	遺構の各種分析調査	通年	富沢遺跡保存館	330	330	市指定管理料 330
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行った。併せて保存処理検討会を開催した。					
119	次年度事業準備・その他	通年	富沢遺跡保存館	167	167	市指定管理料 167
	平成29年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。					
<b>②地域との連携事業</b>						
120	運営懇談会	7月、2月	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るため当館の活動を紹介したり、当館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行う機会として、近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等の方々に出席いただき懇談会を開催した。また、学校や地域との連携事業を模索する場としても開催。					
						のべ20人

### (3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

121	仙台市縄文の森広場 管理運営	通年	縄文の森広場	40,306	40,306	市指定管理料 40,306
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を適切に維持管理した。					
						入館者:29,362人
122	仙台市縄文の森広場 常設展示	通年	縄文の森広場	14,419	14,419	市指定管理料 14,419
	施設内展示及び野外展示を適正な状態で維持した。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を与える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。					
123	企画展「縄文人の暮らし」	通年	縄文の森広場	46	46	市指定管理料 46
	仙台市域の遺跡を中心に、発掘調査から明らかとなった縄文時代の人々の暮らしについて、最新の成果を含めて紹介を行った。3か月毎に主たる紹介遺跡を変えて企画展示を以下のとおり実施した。 ①「縄文人の精神生活－縄文人と墓」14/22～6/26 ②「縄文人の精神生活－縄文人の心の道具」7/22～9/25 ③「縄文人の精神生活－土偶の世界」10/21～12/18 ④「縄文人の暮らし－祭り」とらし」1/20～3/20					
124	縄文まつり・縄文コンサート	5/5、7/31、 10/11・12、 2/4・11	縄文の森広場	881	881	市指定管理料 881
	季節ごとに開催する自由参加イベント。春・秋には各種縄文体験や当館にちなんだゲームなどのイベントを主体とした「縄文まつり」、夏・冬には縄文時代や古代に関連する演奏、地域の団体などによる演奏を主体とした「縄文コンサート」として実施した。					
						参加者:2,094人
125	普及啓発事業	通年	縄文の森広場	2,979	2,979	市指定管理料 2,979
	①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験を実施した。 ②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。 ③体験講座:「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室を実施した。 ④特別イベント:春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を実施した。					
126	ボランティア育成事業	通年	縄文の森広場	167	167	市指定管理料167
	当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて育成事業を行った。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのため、研修事業も行った。					
127	縄文講座	12月～2月	縄文の森広場	780	780	市指定管理料 780
	縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。以下の内容の講座を実施した。 ①「縄文人の資源利用」(12/18) 41名 ②「下呂石と縄文人」(1/15) 43名 ③地底の森ミュージアム開館20周年・縄文の森広場10周年記念シンポジウム「まもりつたえる富沢遺跡・山田上ノ台遺跡－これまで/これからの20・10年－(2/18・19) 2/18:118名 2/19:74名					
						縄文講座参加者:276人

### ①学校との連携事業

128	利用学習事業	通年	縄文の森広場	2,418	2,418	市指定管理料 2,418
	小・中学校教育での当館利用推進を目的として、授業の実践校(仙台市内小・中学校対象)に交通費の補助を行った。学校側との綿密な連携のもと、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。					
						参加者:2,325人
129	学校教育との連携	8月、 10月～12月	縄文の森広場	100	100	市指定管理料 100
	学校教育との連携を促進を目的として実施した事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会を実施した。10～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施した。10～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れて行った。					
						教職員利用研修会:17人 博物館実務実習:1人 職場体験:20人

### ②地域との連携事業

130	運営懇談会	通年	縄文の森広場	1	1	市指定管理料 1
	縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的として7月と2月に懇談会を実施した。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とした。					
						7月:出席者15人 2月:出席者14人

131	縄文の森広場縄文畑の活用	通年	縄文の森広場	7	7	市指定管理料 7
縄文畑に展示の一環として育てているアワ・エゴマ・ヒエの播種から収穫までを体験するなど、子どもたちの活動としてその利活用を図った。また、縄文時代に関する生活体験などを行った。						上野山小学校5年生 5月種まき:72人 10月収穫:71人
<b>③調査研究事業</b>						
132	体験活動メニューの調査研究	通年	縄文の森広場	316	316	市指定管理料 316
各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。						
133	復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討した。また、土葺き堅穴住居の上屋構造に関する調査などを行った。						
134	ボランティアスタッフとの共同調査研究	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。						
135	平成29年度ミニ企画展「仙山交流」資料調査	通年	縄文の森広場	26	26	市指定管理料 26
平成29年度に予定している、仙山交流をテーマとした企画展の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。						
136	資料の収集・保管事業	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。						

#### (4) 仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

137	仙台文学館 管理運営	通年	仙台文学館	176,853	176,853	市指定管理料176,853
文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。						入館者:56,908人 収益事業を含む
138	仙台文学館 常設展示	通年	仙台文学館	0	0	
明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介した。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。						

#### ①特別展・企画展

139	特別展「まど・みちおの世界展」	4/23～6/26	仙台文学館	3,704	3,704	市指定管理料 3,704
「ぞうさん」「やぎさんゆうびん」「一ねんせいになったら」などの童謡詩人として知られる、まど・みちおの展示を開催。児童雑誌の編集者として働きながら詩や短歌、そして童謡作品を発表し、やがてフリーとなって創作に専念したその生涯をたどるとともに、戦中の日記や自身の詩・童謡論を書き綴ったノートなどの自筆資料を紹介した。また、フリーとなってから描き始めた絵画作品も展示し、童謡・詩・絵それぞれの表現から、まど・みちおの作品世界を味わえる内容とし、仙台の文学者との交友も紹介した。						観覧者:3,206人
140	夏休み企画「子ども文学館えほんのひろば」	7/15～8/28	仙台文学館	2,252	2,252	市指定管理料2,252
『わたしのワンピース』や『はけたよはけたよ』など、長年にわたり、子どもたちに愛される絵本を生み出している絵本作家・西巻茅子の原画展を開催。のびのびとした線と明るい色調によって描かれた絵本は、子どもたちの絶大な支持を得てロングセラーとなっており、親子二代にわたって読み継がれる本となっている。展示ではこれら絵本の原画と、子どもたちの感性に響く作品世界を紹介。会期中には作家によるギャラリートークや、絵本作品にちなんだワークショップも開催し、絵本を愛するすべての大人と子どもに向けた企画とした。						観覧者:4,271人
141	特別展「にゃんてったって猫～猫と人間の物語」	9/10～11/6	仙台文学館	3,489	3,489	市指定管理料 3,489
人間と深いかわりを持つ「猫」という生き物に焦点を当て、夏目漱石を起点に明治から近・現代までの作家たちによる猫を描いたエッセイ・小説・童話を紹介。作家ならではの筆力によって描かれる、猫と人間の深くて味わいのあるかわりを紹介した。また、写真家・岩光昭が宮城県石巻市田代島で撮影した猫の写真なども紹介したほか、角田光代、町田康、大木あり、小池真理子といった作家たちから寄せられた猫にまつわる書下ろしのエッセイと愛猫の写真も展示。さらに、仙台市の動物管理センター「アニバル仙台」の協力を得て、保護猫活動について紹介するなど、新たな客層の開拓を図った。						観覧者:3,923人
142	企画展「ドラマ・ウィズ・ミュージック 井上ひさしの音楽世界 井上ひさし資料特集展vol.6」	12/3～4/9	仙台文学館	1,689	1,689	市指定管理料 1,689
2011年に寄贈された、初代館長・井上ひさしの肉筆資料から、井上ひさしの生涯を「音楽」の視点から辿り、幼少時代の音楽体験から自身の音楽劇のスタイルを作りあげていくまでの過程に焦点を当てた展示を開催した。膨大な創作メモやプロットから、井上ひさしと音楽とのかわり、また井上芝居における音楽の持つ意味、そして音楽劇の創作過程をたどった。また、鎌倉の井上事務所や川西町の遅筆堂文庫の協力を得て、作品執筆にあたって使用した書籍、参考資料、旧蔵のレコードも紹介した。						観覧者:1,465人

143	新春ロビー展「100万人の年賀状展」	1/11～2/12	仙台文学館	131	131	市指定管理料 131
	文学館あての年賀状を広く一般から募集した。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示した。					観覧者:3,852人
144	資料の収集・保管	通年	仙台文学館	3,883	3,883	市指定管理料 3,883
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行い、収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行った。					
145	次年度事業準備・その他	通年	仙台文学館	2,611	2,611	市指定管理料 2,611
	平成29年春の特別展「イラストレーター安西水丸」の準備を進めた。また、仙台で活躍する文学者や文学に描かれた仙台についての調査を進め、随時紹介した。					

## ②その他

146	子育て世代の来館支援事業	通年	仙台文学館	574	574	市指定管理料 574
	仙台文学館の設置目的である「文学に関する知識の普及活動を行うことにより、豊かな地域文化の発展に資する」取り組みとして、「親と子」に焦点を絞ったブックガイドの作成を行った。児童文学研究者や絵本作家による寄稿のほか、夏休みのおはなし会で協力を得ている市内の読み聞かせの団体によるおすすめ本紹介や、こどもと向き合う親のための作品等を紹介した内容で構成した。また授乳スペースの整備やベビーカーの追加などを行い、子育て世代の来館を促した。					
147	映像リニューアル事業 (宮城の文学者紹介映像の制作)	通年	仙台文学館	1,818	1,818	市指定管理料 1,818
	現在館内で放映している映像資料のほかに、近年活躍する地域ゆかりの文学者を取り上げた映像作品を制作。今回は、「震災」と向き合う」をテーマに、佐伯一麦と熊谷達也の映像作品とした。作品朗読などを取り入れるとともに、両氏のインタビュー映像も収録して、幅広い世代が読書に親しむ動機づけとなるような内容とした。					

## 5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
		事業内容				備考

(単位:千円)

### (1)仙台市青年文化センター管理運営事業

148	仙台市青年文化センター管理運営	通年	日立システムズホール仙台	330,365	330,365	市指定管理料 330,365
	平成24年度から引き続き5年間の指定管理を受け、その5年目となる当年度において次のとおり施設運営を行った。 (1)利用者が安心して利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化した。 (2)利用者との積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指した。 (3)施設利用に関すること及び芸術文化に関する情報を広く提供するなど広報を強化した。 (4)市民の文化活動の拠点施設であることを踏まえ、施設の活性化及び利用促進につながる施設紹介事業をはじめとした各種事業を行った。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続して行った。 (6)震災や外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制を構築した。また、環境に配慮した各種施策に努めた。 (7)大規模改修に向けての設計や設備更新作業のサポートを、施設設置者とともにを行った。 (8)今年度開催の国際音楽コンクールの運営サポートを行った。					年間利用者:252,093人 収益事業を含む

### (2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

149	仙台市泉文化創造センター (イズミティ21)管理運営	通年	イズミティ21	114,672	121,547	市指定管理料 121,547
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受けた期間の2年度目において、次のとおり施設運営を行った。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指して管理運営を行った。 (2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させた。 (3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なった。 (4)施設の安全維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取り組みを引き続き推進した。 (5)施設を活性化させる事業として、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示などを行い、さらに新春いずみ寄席、ピアノコンサートを行った。					年間利用者:255,375人 収益事業を含む

(3) せんだいメディアテーク管理運営事業

150	<b>せんだいメディアテーク 管理運営</b>	通年	メディアテーク	557,416	557,416	市指定管理料 557,416
<p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特徴を最大限に発揮しながら、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画保全の実施に向けた検討を行った。</p> <p>メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援も行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行った。</p> <p>事業としては、震災後着手した「考えるテーブル」の事業を引き続き発展させるとともに、市民参加型事業を積極的に進めた。</p> <p>また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担った。さらに学校との連携を図り、次世代の育成に取り組んだ。</p>						<p>年間利用者： 379,598人 収益事業を含む</p>
151	<b>せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業</b>	通年	メディアテーク	9,297	9,297	市指定管理料 9,297
<p>映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリー、における映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。</p> <p>また、せんだいメディアテークの事業、および「3月11日をわすれないためにセンター」を拠点として集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供した。</p>						<p>配架本数 384点本 smtコレクション 54タイトル</p>